
At Under The Cherry Blossoms...

遊佐

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

A t U n d e r T h e C h e r r y B l o s s o m s .

【Nコード】

N 9 6 3 3 I

【作者名】

遊佐

【あらすじ】

高校生になつて間もない頃・・・
学校を遅刻した少年が、桜の木の下に美少女を見つけて・・・？
ギャルゲー風小説（？）

P r o l o g u e . . .

季節は春。

桜が満開に咲き誇っている。

「ふわぁ．．．今日も遅刻だなぁ」

オレはあくびをする。

高校生になって、何日か経った今日。

新しい希望があるわけでもなく、

ダラダラと高校まで続く坂道を歩く。

しかし．．．すげえ綺麗な桜だなぁ。

坂道を歩くのはめんどいけど、

桜を眺めてたら、そんなのどうでもよくなる。

ビュオツ．．．と、突然風が吹く。

風によって少し乱れた前髪を直す。

ふと、横にある桜を見ると――．．．

見知らぬ少女が1人、桜を下から見上げている。

夜色の長い髪．．．透きとおるようなほど白い肌。

桜がとても似合う美少女だ。

思わずオレは立ち止まる。

そう、その少女に見とれてしまったから――．．．

『あの制服．．．ってことは、同じ学校じゃねーか』

同じ高校の人なのに、知らない人．．．

2、3年の先輩だろうか。

てゆーか．．．遅刻するぞ？

ま、オレもなんだけど．．．

ひと言かけようと思ったが、

オレは学校まで急ぐことにした。

First...

「じゅんぺえええっ!!」

オレが教室に入るなり、怒っている少女が1人。

「まったく！遅いじゃないの！」

「いやあ、悪い悪い」

「何が『悪い』よっ！一体何回遅刻してんのよっ！」
この少女は河本雪華。コウモトユキカ

オレの幼なじみであり、クラス委員である。

栗色のミディアムヘアを、背中に流している。

それによく見れば、けっこう可愛い顔してるし？

黙ってれば男の1人や2人、寄ってくるだろうに。

ただ、ユキカは、とても言葉遣いが悪い。

それに、めちやくちやツンツンした性格だし。

ま、一部のマニアっぽい奴らは『ツンデレ』と呼んでるらしいが。

ついでに言うと、オレに対しては特にすげえ態度悪いし...

「とにかくっ、明日から遅刻しないでよっ！」

ボヤッとしていたら、

耳をつんざくようなほど大きな声が響いた。

「はいはい...」

「返事は1回！」

「はいよっ...はあ」

ユキカは、スタスタと自分の席へ戻った。

ユキカにだけはかなわねえな。

つくづく、弱いオレが我ながら情けない。

キンコンカンコン...

1校時始まりのチャイム。

それと同時に教室に入ってきた担任。

「1校時はLHRか...」
ロングホームルーム

そう重い、オレは窓辺に目をやる。

Second . . .

「今日は、転校生の紹介をします」
少しざわめく生徒たち。

こんな時期に転校だなんて、

中途半端だよなあ。

「コヤマ ミサ 小山未沙さんです」

先生が続けて言った。

『あー．．．だりー』

オレは机に伏せようとしたが、
次の瞬間、目を見開くこととなる。

何故かって？

「小山未沙です。よろしくお願いします」

その、小山未沙とかいう人は、

今朝、桜の木の下で見た少女だったからだ。

「なあなあ、あのコさ、可愛くね？」

前の席の平野が、ニヤニヤしながら言ってくる。

「あ、ああ．．．」

オレは言葉が出なくなった。

まさか、あの時の美少女が

うちのクラスに転入してくるだなんて．．．

「えーっと、小山さんは．．．あの席に座ってね」

そう言って先生は、オレの横の空席を指差す。

「そう、沖田の横。」

「はい」

その少女．．．ミサは、可憐に返事をする、指示されたほうへ、
歩を進めた。

「おいおい、淳平え、てめー運いいなあ」

小声で『このこのっ』としてくる平野を無視して、ミサの顔を見る。

今、初めてしつかり見た、ミサの顔を。

『目、でけえ．．．』

ミサが机に着き、いすに腰をかける。

ふと、ミサと目が合う。

ミサは目をそらさず、そのかわり、ニコツと微笑み、

「お．．．沖田君、だっけ．．．？よろしく」

「ああ、よろしく」

デレッとなりそうになった顔を引き締め、

サラツと返事した。

こんな美少女にすぐ目の前でニコツてされたらさ、
誰でもデレッとなりそうになるだろ？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9633i/>

At Under The Cherry Blossoms...

2010年10月8日13時12分発行